



コツコツ とことん

大仙市立太田中学校
令和3年10月13日
NO. 73



うららかに たくましく ～耕し 萌えたち みのらせ さきみだる～

後期始業式で話したこと

130の糸を繋いで 充実の後期へ



ついこの前、前期終業式を行ったばかりですが、今日から後期が始まります。まず何よりも事故などなく、皆さんの元気な顔を見られて本当にうれしく思います。

前期の終業式で皆さんに、自分の前期を振り返り、反省し、決意して、登校してくださいとお願いしましたが、どうですか？一人一人に聞きたいところですが・・・その決意は学級で、書いて掲示してください。教室を回って見せていただきます。

後期は令和3年度のまとめの学期であり、未来、つまり次の学年に向かっての準備を行う学期でもあります。

「有終の美を飾る」という言葉があります。これと似たもので「終わりよければすべてよし」ということわざがあります。皆さんも聞いたことがあるでしょう。しかし、この二つの言葉には大きな違いがあります。「終わりよければすべてよし」ということわざは、結果がよければ、途中のことは問題にならない、という意味で使われます。「有終の美」は結果がよいということでは同じですが、物事をやり通す途中の過程も大切にすると、深い意味をもっています。

皆さんは、2日間で後期の目標や決意を考えただけです。目標や決意を決めた時、最初は「これを頑張るぞ」という気持ちが満ちているけれど、時間が経つにつれて、忘れてしまったり妥協してしまったりした経験もあると思います。それを「竜頭蛇尾」と言いますが、そういう、人間として陥りやすい「竜頭蛇尾」を、この「有終の美を飾る」という言葉は戒めているのです。

「最初頑張るのは当たり前のこと。大事なことはその頑張りを最後までやり続けること。最後までやり抜くことができた時、初めて有終の美が飾れた」ということになるのです。今まで最初の決意が最後

まで続かなかったことのある人、途中で投げ出してしまったことのある人、名誉挽回のチャンスと考えて頑張ってもらっています。何をどのように努力していけばよいのか迷う人には、ヒントとなるかも知れないことを二つ話します。

一つ目は「ゴールを思い描く」ことです。

3年生にとっては義務教育最後の学期、自分の将来を考え進路を実現する重要な学期となります。初めて迎える試練かも知れませんが、「チャンスはチャレンジによってつかむことができる」、進路目標を達成した自分を思い浮かべ、自分は本気になったらどこまでやれるのか、自分への挑戦、全力で悔いなき挑戦をしてほしいと思います。1・2年生は、太田Prideの継承者として、2年生には、太田中をリードする学年としての自覚を高め、3年生越えを果たした自分を、1年生には、真の意味で先輩と呼ばれる実力を備えた本物の中学生になった自分を思い描いてほしいと思っています。

二つ目は「三日坊主」の進めです。

ダメなこととして使われることが多い「三日坊主」。私も「三日坊主」人間と自分のことを思うことがあります。でも「三日坊主」大歓迎です。一日もできない人がいる時に、三日続けることはすごいことです。最初の三日ができたなら、次の三日も、次の次の三日も。苦しいから逃げるのではなく、逃げるから苦しくなるのです。どうせ「三日坊主」なら、「本気の三日坊主」を繰り返しましょう。そうしていくことで「三日坊主」が毎日になっていくはずですよ。

「描くゴール」と「本気の三日坊主」、「有終の美」を飾るためのキーワードとして頭に心に留めておいてください。

終わりに、これからどんどん寒くなります。寒さとコロナに負けず、体調に十分気を付け、相手に移さない思いやりのマスクを付けながら、皆さん一人一人が未来に向け、ゴールを目指して毎日の努力を続け、充実した学期となることを期待して話を終わります。



おめでとう ～太中生の活躍～

太田地域花いっぱいコンクール
(R3 9/30)

団体の部 特別優秀賞